

国際協力の現場を語る

JICA（ジャイカ：国際協力機構）は、開発途上国の発展を支援するため、実務の経験と知識を持ったシニア（40歳～69歳）を途上国に「シニア海外ボランティア」として派遣しています。この人達はシニアならではの、海外旅行などでの体験とは違ったいろいろな体験をしてきています。そんな話題も含めて体験を語って頂きます。

日 時：毎月第3水曜日 15時30分～17時
 会 場：JICA 横浜 1階会議室
 会 費：無料（どなたでも自由に参加出来ます）
 主 催：NPO「シニアボランティア経験を活かす会」
 後 援：JICA 横浜

問合せ先：

横浜市中区新港2-3-1 JICA 横浜3階 国際協力連絡室内
 シニアボランティア経験を活かす会 神奈川分科会
 Fax:045-663-3263 担当：白井道雄（045-891-5490）
 Eメール：jicasvob@kme.biglobe.ne.jp



赴任国 (講師名)		「タイトル」 講演概要
1月20日 (水) モンゴル (岡田信男)		「覗き見たモンゴル」 2年間、モンゴル国建築都市計画省に勤務しました。モンゴル全般の公共建築物の計画、建設を統括管理する省です。勤務の傍ら、主要都市への出張、観光地への旅行などをしました。少ない経験ですが、日本には報道されていない、垣間見たモンゴルの一部をお伝えします。
2月17日 (水) インドネシア (工藤 巖)		「インドネシアにおける農産品開発輸入について」 インドネシアは、数千の島、多部族国家です。第二次世界大戦後に独立して、一つの国旗、一つの言語に統一、急速に発展した新興国です。 1. なぜランボン州の餌用トウモロコシの開発輸入は失敗したか。 2. なぜスラウエシ島のコーヒーの開発輸入は成功したか。 二つの明暗経営を解説します。
3月17日 (水) ラオス (木場貞成)		「あれから5年、ラオスの変化」 SV活動を終えてからはや5年の歳月が流れました。その間にSV活動で指導した職場は本当に変化しているのだろうかと言う思いから、5年間というがどんな変化をラオスにもたらしたのか、経済成長率7～8%で発展するラオスの変化を追ってみたいと思います
4月21日 (水) アルゼンチン (牧田繁子)		「タンゴの国で盆踊り」 2001年7月、日本舞踊の指導でシニアボランティアとしてアルゼンチン日系社会に赴任しました。えっ??アルゼンチンで日本舞踊?? 「日本舞踊」といっても実は、盆踊りから長唄、清元まであるんです。踊って、踊って、踊った2年間でした。
5月19日 (水) パナマ・ボリビア グアテマラ (久米村進)		「JICA ボランティア活動で見たラテンアメリカ世界」 1999年秋から本年3月70歳の誕生日を前に最後の帰任までパナマ・ボリビア・グアテマラと都合3回のボランティア活動を経験する幸運に恵まれました。日本と異なる言語・宗教を共通の基盤とする3カ国、その中に住んで体験した違いや共通点などを論じたいと思います。